

News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ

Vol.36, Sep, 2010

臨床疫学研究の手法をどのように学ぶか？ ～On the job training～

筑西市民病院 総合診療科 竹島 太郎 (静岡県 23 期)

今までの News letter は、すでに学位を取得されている先生方がほとんどであるが、私はまだ学位を取得していない。私は、初期研修後の卒後 3 年目から伊豆半島の最南端にある共立湊病院に 3 年間勤務した。救急車は年間約 1600 台を受け入れる南伊豆の医療の要であった。その後、伊豆半島中部に位置する伊豆赤十字病院 (旧修善寺赤十字病院) に 2 年間勤務した。このへき地勤務の 5 年間で、ACLS をはじめとする救急・急性期医療から血液透析を含む慢性疾患の管理、在宅医療や健康教室にも携わり、超音波検査、上下部消化管内視鏡、気管支鏡等の検査技術も体得した。当時、研究日はなかなか確保しにくい環境であったが、特に研究に興味はなく、どっぷり地域医療につかっていることが気持よかった。そんな私が臨床疫学研究という言葉を知ったのが、I-HOPE 主催の「プライマリ・ケア医のための臨床研究デザイン塾」に参加した時であった。ここで、臨床疫学研究の手法が非常に有益で、その研究結果が現場にダイレクトに還元できるものと感じ、自らも臨床疫学研究の手法を用いて、日々の臨床の疑問を解決したいと思うようになった。



では、「どのようにその手法を学び、研究を実施すればよいのか？」まず、私が考えたのは、臨床でもそうであったように、先輩の背中を観ること、とにかく何かしらできることからやってみることであった。まず、学生時代からお世話になっていた梶井教授に相談し、地域医療学部門の研究生となった。そして COE ゲノムバンク事業に登録し、伊豆で約 820 人の協力を得ることができ、現在は JMS コホート研究の解析、ポスト COE 研究の JMS2 コホート研究、生活習慣介入研究、地域医療白書作成に微力ながら協力させて頂いている。

私なりに考えた臨床疫学研究の流れを表 1 にまとめ、先に挙げた研究で自分の関わった部分を囲い、背景を色分けしてみた。JMS コホート研究のデータの解析 (黄緑色) も、COE ゲノムバンク事業 (水色) も、生活習慣予防介入研究 (オレンジ色) においても、これらに協力させて頂く (On the job training) 中で、臨床研究のノウハウを少しずつ学ばせて頂いている。また、研究を実施するにあたって、研究を実施する現場 (フィールド) と洗練された研究デザインを作成できる研究チームが非常に重要であり、さらに研究結果を現場に還元するところまでが臨床研究であると実感している。

一昨年に義務年限を終了し、一年間大学に所属後、本年度から地域医療再生プロジェクト部門のもと茨城県の筑西市民病院で診療を始め、臨床の現場はリサーチクエスト (RQ) の宝庫であると改めて感じている。私の研究テーマは、「プライマリ現場における診断の質をいかに向上させるか」である。日々の診療や昨年からはひき続いての大学の業務、家庭を考えると困難も多いが、目の前の仕事を着実にこなし、あせらずに少しずつではあるが力を蓄えてゆきたい。いつの日か、自分の RQ に自分の作成した研究デザインで回答が得られる日を夢みている。多忙な臨床の中、臨床疫学研究に興味のある先生方、決してあきらめずには是非一緒に頑張っていきたいと思います。

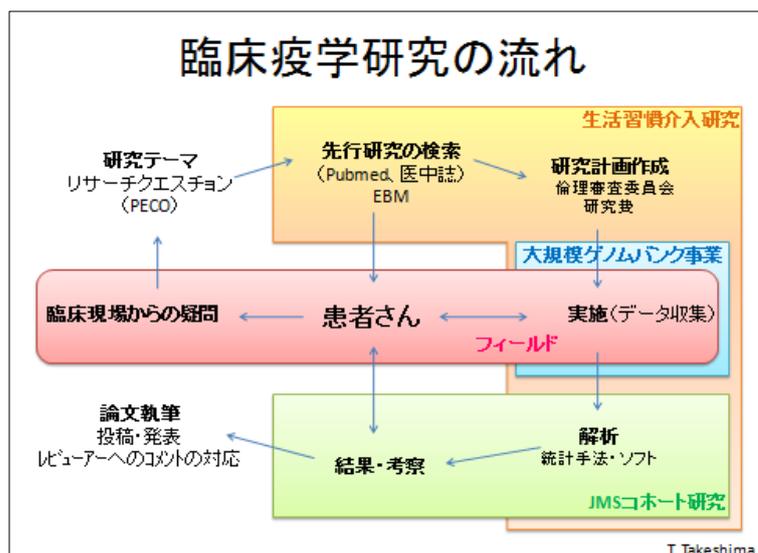


図 1: 臨床疫学研究の流れ

臨床疫学研究に興味のある先生方、決してあきらめずには是非一緒に頑張っていきたいと思います。

2010年度 第1回 臨床疫学セミナー開催報告と第2回セミナーへのお誘い

平成22年7月10日(土)13:00~11日(日)15:00、自治医大本館西棟3階No.1-3教室において、地域医療学センターと大学院医学研究科共催の臨床疫学研究短期セミナーが開催され、卒業生12名、大学院生8名、学内者7名、学外者1名の計26名の参加者がありました。

「日常での臨床における疑問を解決したい、でも実際のところ自分で計画を立てるところまでは行かない」、「研究仮説を基に自分で新たな研究計画(プロトコル)の立て方を学びたい」といった卒業生、本学大学院生や臨床研究初学者からの要望に応えるべく、2日間のセミナー開催となりました。

地域医療学センター地域医療学部門 石川先生の「オリエンテーション・臨床疫学研究とは」、公衆衛生学部門 中村先生の「疫学研究とは」、同部門 上原先生の「交絡・バイアス」の講義の後、各チューター(石川先生、上原先生、小谷先生、西野先生、竹島先生)担当の5グループに分かれて、「構造化抄録に従った研究計画を立て、倫理審査申請書の作成」を目標にグループディスカッションを夕方まで行いました。

2日目には、中村先生の「倫理・研究費」講義の後、各グループディスカッションを継続し、13時より2時間にわたり、各グループより研究計画の発表と質疑応答が行われました。医師の当直業務、患者看護に関わる研究、脳卒中二次予防、禁煙や眠剤使用に関わる研究などの研究計画が呈示され、活発な議論が行われました。石川先生の講評の後、来年度の開催を約してセミナーは終了しました。

1月には「2010年度 第2回臨床疫学研究セミナー：統計解析について」が平成23年1月中旬(14日(金)~16日(日)の間の半日程度)に予定されております。ホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/dscm>)などで、後日ご案内しますので、ご希望の方は是非ご参加ください。

<セミナーに関する問い合わせ>

学事課 教務第1係

内線 3845,3345

E-mail graduate@jichi.ac.jp



〔発行〕自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>